

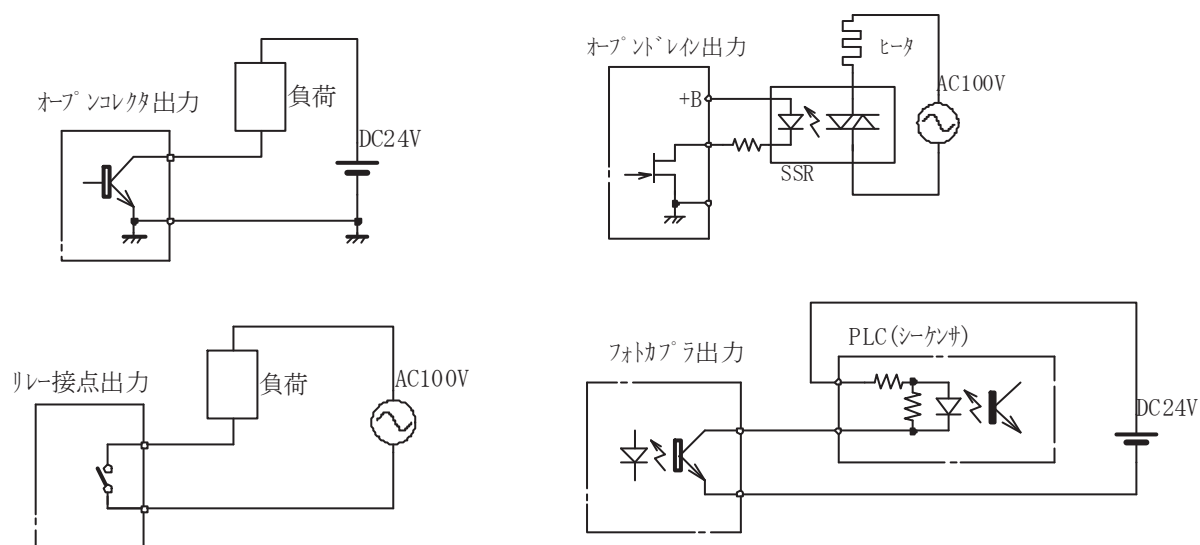
## アラーム出力

あらかじめ設定された値に対し、測定値が上または下にあるかを判定して 2 値化(ON-OFF)信号として出力します。動作モード、設定値は通常パラメータとして設定可能です。

アラーム出力の回路にはつぎのものがああります。

出力回路	駆動電圧	ON 電圧	ON 抵抗	応答時間	絶縁	
オープンコレクタ	DC	0.2~0.8V	10Ω	1mS	×	
オープンドレイン		0V	200Ω	1mS		
フォトカプラ		0.2~0.8V	10Ω	1mS	○	
リレー接点	DC/AC	0V	0Ω	10mS		

下図に接続例を示します。



オープンコレクタ、オープンドレイン、フォトカプラは DC 電圧のみを駆動可能ですが、高速応答です。AC 電圧を駆動する場合は、リレー、SSR 等を駆動することにより間接的に行います。

リレー接点は DC/AC の駆動が可能ですが、応答時間が遅く接点の寿命があります。また接点にあまり大きな電流を流せませんので、ヒータなどを制御する場合は電力制御用リレーを駆動して行います。

### [ヒステリシス]

測定値に変動がある場合、アラーム動作設定値付近においては、アラーム出力が頻繁に ON/OFF となるバタツキが発生します。

このような時、ヒステリシス幅を測定値の変動幅より少し広く設定するとアラーム出力のバタツキがなくなります。ただし、測定値が上昇する時と下降する時とでアラーム動作する値にずれが生じますので、通常ヒステリシス幅は 0 に設定します。

